

「憲法九条を守るわかやま県民の会」 ニュース

NO.104 09.7.21 発行「憲法九条を守るわかやま県民の会」事務局

県地評 Tel 073-436-3520 Fax 073-436-3554 E-mail w-chihyo@naxnet.or.jp

9月9日（水）全県街頭署名

名行動を呼びかけ

「県民の会」は、7月17日に開催した事務局会議で9月9日に全県で街頭署名一斉行動を実施することを県下に呼びかけることになりました。中央の憲法改悪反対共同センターや「9条を考える道南の会」（北海道）のよびかけに答えようというものです。

共同センターは「来年5月18日の改憲手続き法施行に向けて改憲派の策動が強まることは必至であり、また、憲法違反の海賊新法・ソマリア沖周辺への自衛隊派兵の強行の先に海外派兵恒久法がねらわれています。」「憲法闘争の取り組み強化の一環として9月9日に全国で「9の日」宣伝を大きく広げて取り組むことを呼びかけることにいたしました。」と、その趣旨を述べています。

「県民の会」では全県8郡市でそれぞれ最低1カ所以上の街頭署名（駅頭、マーケット前など）を呼びかけています。多数の人や団体の参加で成功させることが望まれます。

9条改憲も9条破壊も許さない！



7月9日「憲法9条を守るわかやま県民の会」と和歌山市9条センターは11時からJR和歌山前で9日宣伝署名行動を行いました。どんより曇って蒸し暑い中、チラシを配りながら元気いっぱい通行人に署名への協力を呼びかけました。各団体から5人がマイクを握り、「7月9日は64年前、和歌山が大空襲で多くの犠牲者が出た日です。再び日本が戦争しないことを誓って憲法9条は生まれました。9条があったから日本は64年間外国と戦争しないで済みました。改憲勢力は改憲原案づくりの舞台になる憲法審査会の始動をねらって、衆議院で審査会規定を強行しました。」「今回、強行された海賊対処法では、武器使用の緩和や他国の船の保護など、アメリカと一緒に海外で戦争する道を開くことをねらっている」「9条改憲も9条破壊もゆるさない世論を広げよう。」と訴えました。期末試験から帰る高校生がよく署名してくれました。大阪から来た年配の方は「私の兄が、7.9和歌山空襲で亡くなった。慰霊祭に行く途中」と言って署名に応じてくれました。10人の行動で、憲法署名は1時間で59筆が集まりました。

7月9日「憲法9条を守るわかやま県民の会」と和歌山市9条センターは11時からJR和歌山前で9日宣伝署名行動を行いました。どんより曇って蒸し暑い中、チラシを配りながら元気いっぱい通行人に署名への協力を呼びかけました。各団体から5人がマイクを握り、「7月9日は64年前、和歌山が大空襲で多くの犠牲者が出た日です。再び日本が戦争しないことを誓って憲法9条は生まれました。9条があったから日本は64年間外国と戦争しないで済みました。改憲勢力は改憲原案づくりの舞台になる憲法審査会の始動をねらって、衆議院で審査会規定を強行しました。」「今回、強行された海賊対処法では、武器使用の緩和や他国の船の保護など、アメリカと一緒に海外で戦争する道を開くことをねらっている」「9条改憲も9条破壊もゆるさない世論を広げよう。」と訴えました。期末試験から帰る高校生がよく署名してくれました。大阪から来た年配の方は「私の兄が、7.9和歌山空襲で亡くなった。慰霊祭に行く途中」と言って署名に応じてくれました。10人の行動で、憲法署名は1時間で59筆が集まりました。

憲法署名行動に参加して

高教組第2支部海南海草地区



7月5日の全県署名行動で、海南海草地区は、海南市内のスーパーでの宣伝・署名行動、海南駅前での宣伝・署名行動、そして、紀美野町での戸別訪問署名行動と、多様な取組を工夫したことが今回の特徴でした。

私たち高教組は、試験後で採点等忙しい中でしたが、海南高校分会5名、海南下津高校分会1名、そしてOB1名の計7名が紀美野町での戸別訪問署名行動に参加しました。

午前10時に野上厚生病院前に集結すると、他の団体等の方々も含めて、総勢22名が集まって来られました。1班2～3名の計8班に分かれ、厚生病院周辺の紀美野町小畑地区300戸を訪問することになりました。前回の海南市内と違って、家々が点在していたり、坂道を上り下りしながらの戸別訪問でしたが、F田海南分会長の励ましもあり、約160筆の署名を集めることができました。最後に再び厚生病院に集結して、高教組参加者で記念写真をとった頃からポツリポツリと落ちてきて、天も我に味方したかなと感謝するとともに、F井OBの強い情熱が天候も味方にしたのだと改めて感じ入った1日でした。次回はいつになるか分かりませんが、高教組は次回も「火の玉となって闘う」ことを意思統一し、それぞれが帰途につきました。

和高教第二支部 海南海草地区担当通信員
海南分会 K山

“女性たちの戦争体験”

第5回「戦争体験と平和への思いを語り継ぐ会」に100人―「九条の会ゆら」

「女性たちの戦争体験」をメインテーマにし



て開かれた「第5回戦争体験と平和への思いを語り継ぐ会」は、6月20日（土）由良町中央公民館2階ホールで開かれた。

開会の冒頭、畑中町長の「本日の会が契機となり、さらに平和への思いが広がることをお祈りいたします」というメッセージが紹介され、第1部「一本の鉛筆」の参加者全員による大合唱が行われた。第2部は、紀央館高校の教師集団が制作したスライド「女性たちの戦争体験」が同校小田憲（あきら）先生のナレーションによって上映され、太平洋戦争中の女性たちの様々な戦争体験が紹介された。

第3部では、姫路師団に女子軍属として志願した当時17歳の祐本登美子さんが、師団とともに満州ジャムスに移動後、そこで旧ソ連軍の捕虜になり、その後日本の陸軍病院の医師看護婦たちとともに中国人民解放軍に留用されて、医師看護婦たちからすぐに現場で役立つ看護婦養成の猛烈特訓を受け、満州から華北各地を転戦移動する人民解放軍の負傷兵を看護しながら華中揚子江中流の武漢陸軍病院にたどり着くまで体験を聞いた。

祐本さんの稀有な体験と祐本さんの戦争は二度と繰り返してはならないという訴えに、祐本さんの体験や戦争下の女性の苦労についてもっと聞きたい、話し合いたいという声が多く出た集会になった。

「九条の会ゆら」事務局長 池本護さん寄稿文の抜粋です。

「月光の夏」を鑑賞して

7月8日、劇団「東演」の「朗読劇・月光の夏」を観た。原作は毛利恒之著 汐文社刊「月光の夏」演出・鈴木完一郎。

太平洋戦争末期昭和二十年初夏、明朝出陣するという音楽を愛する学徒出陣の特攻隊員二人が小学校にかけつけ、今生の別れにベートーヴェンのソナタ「月光」を弾き沖繩の空に出撃して行く。

一人は戦死、一人は……。これほど公演時間を短く感じたものにかつて出会ったことがあったらどうか。生のピアノ演奏と、演者は舞台上で芝居を演じるのではなく、内容はすべて原作の語りを朗読によって観客に伝える。観客はすべての場面をそれぞれの想像力に委ねられる。黒い衣装の演者もまたその内容を声のみによって伝えるという厳しいものを要求される。身体の演技はいらない。神山征二郎監督による映画「月光の夏」も感動的であったが、今回の東演の公演に私は、まいった。ピアノもよかった。客席第一列、かぶりつきにいた。はじめから涙が流れ、最後まで泣いていた。

そして今日は7月9日、和歌山空襲によって和歌山市が灰燼に帰した日。1945年7月9日を忘れるものか。紅蓮の炎の中を逃げまどった6歳の夏。生きのびたけれど辛い戦後であった。憲法九条守るべし。

草田信行さんのブログ「三流読書人」より